

◆目 次◆

大会概要	1
大会日程	2
オープニングパフォーマンス	3
開会式	4
基調講演	1 0
分科会	1 2
視察研修・あそびの屋台	3 4
交流会	3 6
閉会式	3 7
ふくい大会振り返り	4 2
実行委員・企画委員名簿	4 6

◆大会概要◆

【開催目的】 全国の児童館・児童クラブ職員が児童健全育成事業を推進するために、自主的な研究協議と交流の場を設け、自らの意識と資質の向上を図る。

また、児童館・児童クラブの多様性やその意義、職員の専門性について、地域社会へ認知が広がることを希求し、その普及・啓発のために現任従事者の積極的な企画・運営への参画を得ることを重視する。

【名 称】 第16回全国児童館・児童クラブふくい大会

【テ ー マ】 つるつるいっぱい ふくいでハピネス

～ みんなでつなぐ 子どもの未来 ～

【期 日】 平成30年11月10日（土）・11日（日）

【会 場】 福井県生活学習館（ユー・アイふくい）、福井県中小企業産業大学校

【参 加 者】 児童館長、児童厚生員、放課後児童支援員、行政担当者、研究者等

【主 催】 福井県児童館連絡協議会、一般財団法人児童健全育成推進財団
全国児童厚生員研究協議会

【共 催】 福井県、福井県教育委員会

【主 管】 第16回全国児童館・児童クラブふくい大会実行委員会

【後 援】 厚生労働省、福井市、敦賀市、小浜市、大野市、勝山市、鯖江市、あわら市、越前市、坂井市、永平寺町、池田町、南越前町、越前町、美浜町、高浜町、おおい町、若狭町、社会福祉法人全国社会福祉協議会、児童厚生員養成課程連絡協議会、民間児童館ネットワーク、全国地域活動連絡協議会、公益財団法人福井観光コンベンションビューロー、社会福祉法人福井県社会福祉協議会、福井県みらい子育てネット母親クラブ連絡協議会、福井新聞社、FBC福井放送、福井テレビ、FM福井、福井ケーブルテレビ、さかいケーブルテレビ、丹南ケーブルテレビ、嶺南ケーブルネットワーク、ケーブルテレビ若狭小浜（順不同）

テーマについて

「つるつるいっぱい」とは、福井の方言で「あふれるほどいっぱい」という意味です。
幸福度日本一の福井でハピネスを感じてください。

◆大会日程◆

【1日目】 11月10日（土）		
12:00	受付開始	
13:00 ～ 13:40	全 体 会	オープニングパフォーマンス 【出演団体】 木部子ども三味線教室（坂井市） 八ツ杉太鼓 遊心（越前市） 勝山左義長ばやし保存会（勝山市）
13:40 ～ 14:00		開会式
14:00 ～ 15:00		基調講演 テーマ 「日本、そして福井の子育てあれこれ?!」 講師 パックンマックン
15:15 ～ 17:15	分科会Ⅰ	
18:30	交流会受付開始	
19:00 ～ 21:00	交流会 会場：ザ・グランユアーズフクイ（ホテルフジタ福井 3階）	

【2日目】 11月11日（日）		
9:00	受付開始	
9:30 ～ 11:30	分科会Ⅱ	
11:45 ～ 12:30	閉会式	
12:50 ～ 17:30	視察研修	
13:30 ～ 15:30	あそびの屋台 会場：福井県児童科学館（エンゼルランドふくい）	

◆オープニングパフォーマンス◆

全国からの参加者を歓迎するため、福井の伝統芸能や児童館の子どもたちによる演奏を披露しました。

●出演団体プロフィール



木部子ども三味線教室（坂井市）

木部子ども三味線教室は、坂井市坂井町の全校児童89名の木部小学校校区にある坂井木部児童館で児童館活動のひとつとして続いている教室です。今年で12年目をむかえ、すっかり地元根付き、夏休みは毎週末イベントに出演しているほか、毎年3月にエンゼランドふくいで開催される「児童館フェスタ」にも出演しています。児童館に来館する児童たちが教えあい、運営していくことを目標に日々の練習に励んでいます。



ハツ杉太鼓 遊心（越前市）

1989年、越前市（旧今立町）で活動するハツ杉権現太鼓を継承したいという思いから結成しました。太鼓の面白さ、楽しさを感じながら、日々成長するとともに、太鼓を通じて「感動と元気」を与える演奏ができるよう日々練習に励んでいます。



勝山左義長ばやし保存会（勝山市）

2月の最終土日に行われる「勝山左義長（かつやまさぎちょう）」は300年以上の歴史があり、福井県の無形民俗文化財に指定されています。勝山左義長ばやしの「浮き太鼓」は、楽しい唄に合わせて面白おかしく自由に太鼓を打つことが特徴です。また、太鼓に人が座ることや、長じゅばんを着ることなどは、全国のまつりや太鼓の中でもとても珍しい郷土に育まれた伝統芸能です。

◆開会式◆

開 会 宣 言



第16回全国児童館・児童クラブふくい大会実行委員会

委員長 欠 戸 郁 子

皆様こんにちは。

本日は、北海道から沖縄まで全国からたくさんの方々に福井へおいでいただきまして、誠にありがとうございます。

また、ご来賓の皆様方には、ご多忙の中、ご臨席を賜りまして、厚くお礼申し上げます。

幸福度日本一の福井県でこの大会を開催できることを大変光栄に思っております。

今日と明日の二日間、様々な研究討議がなされるこの大会が、大会テーマのサブテーマにございますように、つるつるいっぱいハピネスを、次代を担う子どもたちの未来につなぐ第一歩となることを祈念しております。

それでは、ただ今から「第16回全国児童館・児童クラブふくい大会」の開会を宣言いたします。

◆開会式◆

主催者挨拶



一般財団法人児童県税育成推進財団

理事長 鈴木 一 光

子どもたちのパフォーマンスすごいですね。あの伝統が間違いなく引き継がれて、文化が継承されていくということを、目の当たりにしたような興奮に襲われています。

あの子ども達の姿が、私達児童館、児童クラブの職員のエビデンスであり成果ですよ。

その子ども達に背を押されてふくい大会始めたいと思います。

思えば、平成7年に第1回のこの大会を開いた時から、児童福祉をミッションと感じている者たちが集まって、児童厚生員の矜持、誇りを持ち続けようというのが、主旨の大会でございます。もとより予算はありませんし、補助も潔しとせずに手弁当でやって参りました。ですから、2年に1回、その代わり労働組合運動とか、営利商業主義と間違われぬ為に、厚生労働省を始め、開催都道府県の方々、それから地方自治体の方々、公の団体、組織の後援をたくさんいただくことを心掛けて参りました。

重ねまして16回目のふくい大会でございます。10月1日に厚生労働省の多大な尽力があって、改正児童館ガイドラインが発出施行されました。これは、幸せを発信する幸福度日本一のふくい大会に相応しい時と相応しい時間だというふうに考えております。なぜならば、児童福祉法の主旨は、子ども達を幸せにすることにあります。最善の利益と最大の発達を保障する児童福祉法を受けまして、改正児童館ガイドラインは、子どもの気持ちで作りに上げてきたというふうに聞いております。

特に、総則第1章の一行一行には魂がこもっております。その子どもを見る視点、我々がどう子どもを見たいかという基本的視点、それから、児童館における遊びの意味、そして児童館という施設が健全育成の拠点、センターなんだという拠点性、それから、公序良俗に反しない限り何をやってもいいというのが多機能性、そして、地域全部を子どもが安心して遊べ暮らせる場所にするというのが、児童館の持てる地域性、これらが織り込まれておりますので、是非、総則を読みこなして、身に付けていただきたいというふうに考えております。

そういったことを、この2日間、折に触れてですね、読み込んで、体得して福井から進めていきたい、児童館ガイドラインの前文でございます。

結びになりますけれども、この大会を開くに当たりましては、厚生労働大臣の書簡もいただき、厚生労働省からは、田村課長にご臨席を賜っております。福井県からは、西川知事それから、山本県議会議長、福井市長にもご臨席を賜りました。これは何よりも望外の喜びであります。さらに、児童厚生員の運営委員の方々、それから福井県の児童館の先生方にはこの会を目指してですね、多大なるご尽力をいただいております。

その他県内の多くの方々のご協力を得て、今日のこの日を迎えることが出来たことを、ご報告し、また、北海道から沖縄まで集まってくださった皆様に感謝をして、開会の私の挨拶とさせていただきます。

◆開会式◆

来賓挨拶



厚生労働大臣 根本 匠 様
(代読:厚生労働省子ども家庭局子育て支援課課長 田村 悟様)

第16回全国児童館・児童クラブふくい大会の開催に当たり、一言お祝いを申し上げます。

本大会が、16回目を迎えられたことに心からお慶び申し上げますとともに、開催に当たり、関係者の皆様のご尽力に対し、厚く御礼申し上げます。

また、日頃から、児童の健全育成や子育ての支援に携わる関係者の皆様に、心から敬意を表します。厚生労働省では、児童が健全に育成されるよう児童福祉の推進に日々取り組んでおります。

本年10月には、7年ぶりに児童館ガイドラインを改正しました。ひとり親家庭や児童虐待などの昨今の子どもをめぐる福祉的な課題への対応や、異年齢児の交流など子育て支援に対する児童館の機能の強化について、全国の自治体に周知を行いました。

また、放課後児童クラブの関係では、本年9月に「新・放課後子ども総合プラン」を厚生労働省と文部科学省の連携のもと策定いたしました。本プランでは、放課後児童クラブの待機児童を解消することを目指し、2021年度末までに約25万人分を整備し、来年からの5年間で約30万人分を整備することとしております。量的整備に加え、放課後児童クラブが児童の自主性、社会性を育む場であるという役割も改めて明示しました。

今後とも、こうした施策をしっかりと進めることにより、児童館や放課後児童クラブがより発展し、ひいては、地域の多くの方々のご協力のもとに、子どもたちが健やかに育つことができますよう期待しております。

結びに、本大会が実り多い大会となりますよう祈念するとともに、本日ご参集の皆様のますますのご活躍をご期待申し上げ、お祝いのご挨拶といたします。

◆開会式◆

来賓挨拶



福井県知事 西川 一 誠 様

皆さん、こんにちは。

第16回の全国児童館児童クラブの福井大会が開催されるに当たり、一言ご挨拶申し上げます。

全国各地から福井県にお越しをいただき、まずもって心から歓迎を申し上げます。皆様には日頃からそれぞれの地域で児童の健全育成にご尽力いただいておりますことに深い感謝と敬意を表すものであります。

また、福井県では、先月国民体育大会と障害者スポーツ大会が50年ぶりに2回目の大会が開かれたところでございます。障害者と健常者の融合と言いましょうか、こういうことにも成功し、天皇杯、皇后杯を獲得できたところでございまして、皆様に厚くお礼を申し上げます。

さて、福井県は色々な生活水準の調査において、幸福度日本一の評価をいただいております。また子どもの幸福という調査も別にあります。これは慶応大学がなさっておりますが、これにおいても子どもの幸福度も日本一であります。

それから、学力と体力、これは文部科学省が毎年調査をしておりますが、これも学力体力とも日本一という県でございまして、それがどのように本当に見えるかというのもまた難しいところではありますが、是非どこに見えるかですね 見ていただければとこんなふうに思っております。

福井県では3人子応援プロジェクトなど、さまざまな独自の政策を重視し、地域の繋がり、3世代同居・近居こういう力で子育ての環境作りを進めております。

児童館・児童クラブにつきましてもいろいろな遊びや体験学習が出来る環境を作ると共に地域の子育て支援の拠点として機能が発揮できるよう引き続き児童館活動を支援して参りたいと思います。

明日の研修先でございますエンゼルランドふくい 福井県児童科学館であります。これは初代の宇宙飛行士で、日本科学未来館の館長でもいらっしゃいます毛利衛さんが名誉館長をさせていただいております。施設はいろいろリニューアルいたしまして日本科学未来館と同じ宇宙の映像がほぼ同時点で見られるようになっています。また先ほど勝山左義長という大変愉快なお祭りがあったと思います。あの勝山の恐竜博物館もご視察願うと思います。世界の三代恐竜博物館でありまして、地方ではあります。年間100万人近い来館がございまして。フクイティタン、フクイラプトル、フクイミナートとか恐竜がたくさんいますのでまたご覧いただきたいと思います。また、福井県はコシヒカリの発祥の地であります。今年50年ぶりにコシヒカリの後継のお米としていちほまれという日本一誉れ高いお米を開発しました。是非、福井のおそばと同様、また、越前かにと同様このいちほまれも召し上がっていただければと思います。

結びになりますが、今回の大会のご成功と本日お集まりの皆様の一層のお元気とお幸せを心からご祈念申し上げます。歓迎のご挨拶とさせていただきます。ようこそお見えいただきました。

◆開会式◆

来賓挨拶



福井県議会議長 山本文雄様

今日は第16回全国児童館・児童クラブふくい大会がこのように会場いっぱいに皆様方がお集まりになりまして開催をされますことを心よりお祝いを申し上げたいと思います。また、全国からわざわざ遠路わざわざお越しいただきました皆様方に心からご歓迎を申し上げたいと思うのでございます。皆様方には日頃から児童館および放課後児童クラブ活動を通じまして、地域児童の健全育成に多大なご尽力をたまわっていると思い、心からお礼を申し上げたいと存じます。

さて、我が国では本格的な少子高齢化、人口減少時代を迎えまして核家族化や情報化、そしてライフスタイルの多様化など児童を取り巻く地域や家庭のあり方が大きく変化をいたしており、児童の福祉的課題も複雑・多様化をいたしておるのが現状でございます。これからの日本を担う子どもたちが夢や希望、豊かな心を持ち健やかに成長することは国民全ての方々の切なる願いでございます。まして、われわれ大人に課せられた自訓もあり、児童の健全育成に携わっておられる皆様方の果たす役割は益々大きくなっていくと思うものでございます。

こうしたなか、本日関係各員が一同に会されまして、「つるつるいっぱい ふくいでハピネス～みんなでつなぐ 子どもの未来～」をテーマにかかげまして、研鑽を深めますことは誠に意義深く、この大会を契機といたしまして児童館そして放課後児童クラブの活性化が一層図られるといい、大いに期待をいたしているものでございます。私ども県議会といたしましても児童の健全育成に、皆様方と一緒に全力を挙げて取り組んで参りたいと思っておりますので、一層のお力添えをいただきますようお願いを申すものであります。

結びになりましたが、児童館連絡協議会また関係団体の今後ますますのご発展、本日ご参加の皆様方のご健康とご多幸を祈念をいたしましてお祝いの言葉とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。ありがとうございました。

◆開会式◆

来賓挨拶



福井市長 東村 新一 様
(代読：福井市教育長 吉川 雄二 様)

第16回全国児童館・児童クラブふくい大会の開催に当たり、開催地を代表いたしまして、一言ご挨拶を申し上げます。本日は、全国から多くの皆様が福井市にお越しいただき、誠にありがとうございます。心から歓迎をいたします。

また、全国の児童館、児童クラブ関係の関係者の皆様が一同に会し、本日の基調講演、分科会など、2日間にわたって盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げます。皆様方におかれましては、日頃から、児童の福祉の向上に積極的に取り組まれており、その並々ならぬご努力に対し深く敬意を表します。

さて、児童を取り巻く地域や家庭のあり方が多様化し、共働き世帯の増加や、一人親世帯の増加、地域のコミュニティ力の低下などにより、児童を社会全体で育てていくことが求められてきている中、今後も児童健全育成活動の拡充が大きく期待をされている所でございます。本市では、共働き率が高いことから、仕事と子育てを安心して両立出来るよう、保育、教育環境の充実に力を注いでおり、児童館や学校の余裕教室等を利用して、78箇所放課後児童クラブを運営をしています。今後も子どもの健やかな成長を支援すると共に、子育て世帯だけでなく、高齢者、障害者も地域で支え合い、誰もが安心して暮らせる街づくりを進めて参りたいと考えております。

せっかくの機会でございますので、本市の紹介をさせていただきます。福井市は豊かな自然と美味しい食べ物に恵まれ、毎年住み良さにおいて全国的に高い評価をいただいております。

中世の貴重な史跡である朝倉氏遺跡や、幕末の歌人橘曙覧の記念文学館。福井藩主松平氏の別邸養浩館庭園、福井藩の外国人講師であったグリフィスの記念館等、皆様には是非訪れていただきたい名所や史跡が沢山ございます。この機会に是非ともお立ち寄りいただき、福井市の文化や食の魅力にも触れていただければ幸いです。

結びになりますが、全国児童館、児童クラブ大会の益々のご発展ならびに本日お集まりの皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げ、お祝いの挨拶とさせていただきます。

平成30年 11月10日
代読でございました。
本日は誠にありがとうございます。

福井市長 東村 新一

◆基調講演◆ 日本、そして福井の子育てあれこれ？！

- 日 時 11月10日(土) 14:00～15:00
- 場 所 福井県生活学習館 多目的ホール
- 講 師 パックンマックン
- プロフィール 1997年に共通の知人の紹介で知り合い、パックンマックンを結成。日米文化をネタとしたお笑いで人気を博し、情報番組、英語にまつわるコーナーなど、テレビ・ラジオで活躍。ラスベガスやハリウッドで英語漫才に挑戦し成功を収めた「国際派お笑いコンビ」



パトリック ハーラン (パックン) 写真右

出身地 アメリカ コロラド州
生年月日 1970年11月14日(48歳)
就 任 福井ブランド大使
東京工業大学非常勤講師

吉田 真 (マックン) 写真左

出身地 群馬県
生年月日 1973年3月26日(45歳)
就 任 ぐんま観光特使
富岡ふるさと大使

●概要

福井ブランド大使としても活動中の、国際派お笑いコンビのパックンマックンをお招きし、「日本、そして福井の子育てあれこれ?!」と題して、幸福度No.1の福井県と全国、世界との子育て、環境、文化の違いなどを、軽快なトークと笑いで講演が行われました。

冒頭、本講演の要点である「コミュニケーションの楽しさ」を参加者全員に感じ取ってもらうため、ペアによる自己紹介が行われました。特にはじめて同士の握手と会話で会場内は一気に熱気と興奮に包まれ、打ち解け和やかな雰囲気は一転、盛り上がりました。そして「コミュニケーションは楽しいことを、親あるいは会場の皆さんのような教育者は自らの行動で示して、子どもたちに伝えることが大切」と訴えました。

パックンは坂井市にある福井県児童科学館「エンゼルランドふくい」で、自分の子どもたちと一緒に遊んだこと、マックンは「福井は僕の出身群馬と同じく自然が多く身近で、自然から学ぶことが多い。」とか、「子どもが児童クラブに通っていて、児童館や児童クラブでの創作ワークショップやあそびに積極的に参加させていました。この体験が子どもを大きく成長させてくれた。」と語っていました。

また、子育て、子どもの教育、さらに将来の進路や仕事を決める時など、日米の文化や考え方にどうしても違いがあり、そこで最も大切なことは子どもを含めた家族の話し合い〜「家族会議」を持つこと、「家族会議」で子どもにできるだけ選択肢を多く示して物事を決めること、そのカギになるのが「コミュニケーション」であることを強調しました。

講演は冒頭を除き、パワーポイントの映像により日米の違いが説明され、最後にマックンがラスベガスやハリウッドでパックンと組んで英語漫才をやる夢をかなえるため、かつて英会話の猛勉強をしたことが紹介され、「レストランを舞台にした英語漫才」が披露され、講演を終えました。

●講演の様子



(パッケンとマッケン)



(ジャンケンゲーム)



(参加者全員の自己紹介)



(会場参加者全員による自己紹介)

